

おぐら しざん 小倉 志山 (1701~1762)

俳人。商人。松山城下(現、松山市)を中心に活動した人。本名は茶屋長次郎。松尾芭蕉の門人の三上角上に師事し、俳諧を学ぶ。若くから芭蕉の世界に傾倒し、芭蕉50年忌には、和気郡久万村(現、久万高原町)の大宝寺境内に、県内最古の芭蕉句碑「霜夜塚」を建立するなど、松山や久万の蕉風俳諧の重鎮であった。しかし、一方では淡々流や美濃派(芭蕉の門人・各務支考が美濃国に興した蕉門の一流派。俗談・平話を旨とし俳諧を大衆に広く浸透させた)の俳人とも交流を持っており、自由な立場で幅広く俳諧を学ぶという面もあった。

略歴

元禄14(1701)年	出生
寛保3(1743)年10月12日	和気郡久万村の大宝寺に芭蕉句碑を建て、追善興行(供養のための催し)を行うと同時に出家
延享元(1744)年11月	前年の芭蕉の追善興行で詠まれた句をまとめた句集『俳諧霜夜塚』を編集し、刊行
宝暦元(1751)年10月	久万地方の俳諧の中心人物であった佐伯寿風の追悼集『十夜の霜』刊行。志山の句が収められている。
宝暦12(1762)年4月	62歳で永眠。墓所は松山市三番町の観音寺

〈関連図書〉

- ・景浦勉『伊予俳諧史』伊予史談会 1958年
 - ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』愛媛文化双書刊行会 1975年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』愛媛県 1984年
 - ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- 〈ゆかりのある場所〉…(P297, 134)